

夢をありがとう

# 鈴鹿 激闘、耐



7月26、29日、鈴鹿8時間耐久ロードレースが開催された。BMW勢は10年からチームトラスがS1000RRで参戦を開始。昨年ではモトラッド・フランスが4位入賞を果たすなど、有力チームがひしめく厳しい上位争いに割って入っている。今年も初参戦のゼッケン390がいきなり8位でフィニッシュした。

Photo: Satoshi Miyama / Fred Yoshizaki Associates

## 国内有力チームを相手にBMWが上位を目指す

鈴鹿8時間耐久ロードレースにおけるBMWの歴史は、80年代中期にさかのぼる。本誌でもおなじみの山田純さんらが83年にR100RSで挑戦、デビッド・エムデ/杉本五十洋さんのペアが決勝19位という結果を残した。翌84年には、R80を駆るジョン・ロング/エムデ、千石清一/加藤栄重さんという2チームが、16、17位と並んでチェッカーを受けている。が、85年を最後にBMWの8耐参戦は、15年以上途絶えた。国内4メーカーがファクトリーマシンを持ち込むだけでなく、GPライダーも起用するようになった。8耐の戦いは過熱の一途をたどり、TT、ドゥーエス1パーバイクといった世界選手権レギュレーションに合致するレーシーなバイクをラインナップしていないBMWでは、まったく勝負にならなくなった。それでも現在「チームトラス」として参戦している「ボクサースポーツクラブ」が、02年にR1100Sで挑戦を始めた。鈴鹿独自のクラス、Xフォーターが設定され、上位争いは関係なく、8時間を走りきる

ことをテーマに出場できるようになったのだ。エントリーのほとんどは国産スーパースポーツツアースキットパーツ組み込み車だから戦いは厳しく、04年には予選落ちも喫したが、02、03、05年には決勝へ進出。35位のベストリザルトを残すとともに、06年にはK1200Rを走らせて完走している。

09年に登場したS1000RRは、そんなBMWエントリーの戦い方を一変させた。同じスーパースポーツなので、国産4気筒勢と競り合って当たり前、という見方は間違っていない。世界耐久選手権のマシンは08年から「EWC」という改造制限の厳しいクラスに統一されており、その点ではイコロンコンディションに少し近づいた。が、鈴鹿8耐ではファクトリーマシンが供給されるトップチームだけでなく、国内メーカーのサポートチームが上位にひしめく。全日本を含めた豊富なデータとパワーを持つ彼らに対し、BMW勢はブライベーターだ。世界耐久チームのモトラッド・フランスこそファクトリー仕様のエンジンが供給されているが、日本のサーキットのデータはほとんど保持しておらず、車体のセッティングをゼロから行わなければならないという点では全チームが同じ状況である。

しかしそれでも上位進出を望めるのが、S1000RRのスゴいところなのだ。ベースのポテンシャルそのものが、高いのである。

## 今年は3チームがS1000RRで参戦

#390

Team Motorrad 39

[88] 初参戦



第1ライダー 寺本幸司 第2ライダー 轟井大作 第3ライダー 矢本清貴

09年にヨシムラで8耐優勝を果たしている酒井選手が結成した新チーム。13歳のとき4耐で優勝した30歳。昨年はスズキで世界耐久タイトルも獲得。第1ライダー登録の寺本選手は40歳のベテランで、8耐では5位入賞の実績を持つ。決勝はこのふたりで走り、第3ライダーの矢本選手は万が一のサポートライダーとして参加

#99

BMW MOTORRAD FRANCE 99

[98] 参戦2年目



第1ライダー セバスチャンジャンベール 第2ライダー ダミアンカドリン 第3ライダー エルワンニコソ

世界耐久選手権におけるBMWのオフィシャルチームで、本拠はベルギー。10年の後半から参戦を始め、昨年はランキング2位を獲得した。ジャンベール選手は世界GPS50やWSBを走った経験を持つ34歳のフランス人。オーストラリア出身のカドリン選手は、モト2にも参戦している29歳。第3ライダーのニコソ選手は29歳で、10年にBMWでフランス選手権のSBK王者を獲得

#135

Team Tras BMW S1000RR

[86] 参戦3年目



第1ライダー 高田隼人 第2ライダー 松下佳成 第3ライダー 伊田順

BMW ジャパンに勤める武藤昇さんが、個人的に立ち上げたブライベーター。メカニックはBMWディーラーのマイスターたちが務め、カーボンパーツのスペシャリストであるトラスがマシン製作をサポート。S1000RR登場後の10年から8耐に復帰。11年は15位と世界耐久ポイントも獲得した。今年も全日本ライダーの高田と伊田選手、マン島チャレンジャーの松下選手という3名で挑戦

## レース結果

2012 FIM世界耐久選手権シリーズ  
"コカコーラ ゼロ"鈴鹿8時間耐久ロードレース 第35回大会  
2012年7月26-29日

順位	ゼッケン	チーム名	車両	周回	ライダー
1位	11	F.C.C. TSR Honda	ホンダCBR1000RR	215Laps	J・レイ、秋島幹徳、山田宏之
2位	104	ToHo Racing with MORIWAKI	ホンダCBR1000RR	211Laps	山口辰也、高橋和紀、寺島謙介
3位	94	YAMAHA FRANCE GMT94 MICHELIN	ヤマハYZF-R1	211Laps	D・チカカ、K・フォーレイ
4位	32	Moto Mao SUPPLY	スズキGSXR1000	210Laps	今野由貴、藤田拓也、長谷川
5位	25	Honda 鈴鹿レーシングチーム	ホンダCBR1000RR	210Laps	藤原和樹、安田航史、北口高二
8位	390	Team Motorrad 39	BMW-S1000RR	208Laps	寺本幸司、轟井大作、矢本清貴
9位	99	BMW MOTORRAD FRANCE 99	BMW-S1000RR	208Laps	S・ジャンベール、D・カドリン、E・ニコソ
16位	135	Team Tras BMW S1000RR	BMW-S1000RR	203Laps	高田隼人、松下佳成、伊田順

